

令和5年度 第2回通常総会 議事録

1. 日 時 令和5年11月28日(火) 13時00分～16時30分
2. 場 所 アルカディア市ヶ谷
3. 会員総数 115名
4. 出席会員 出席者 115名
(会場出席者 65名)
(出席者委任 32名 議長委任 18名)
5. 出席した理事 会 長 井上 圭三 (議長兼議事録作成者)
副 会 長 楠 文代 中村 明弘
常務理事 田中 芳夫 越前 宏俊
加留部 善晴
理 事 杉林 堅次 亀井 美和子
神野 透人 中村 恵
北川 裕之 篠塚 和正
6. 出席した監事 富田 基郎 市川 厚
7. 出席した参与 乾 賢一 本間 浩

8. 議事の経過の要領及びその結果

定款第14条の規定により井上会長が議長に就任し、会員現在数115名に対し、本日の出席会員が115名となり、定款第17条に定める定足数を満たしており、本総会が有効に成立していることが宣言された。

また、議事録署名人として出席理事から楠 文代副会長、田中芳夫常務理事を指名し、事務報告の後、議案の審議に入った。

(1) 前回議事録の確認について

前回議事録(令和5年度第1回通常総会:令和5年6月6日開催)について、これを全会一致で承認した。

(2) 任期満了に伴う役員(理事、監事、会長及び副会長)の選考手続き等について

井上会長から、現役員任期は、令和6年6月開催の第1回通常総会の終了までとなり、来年度改選を行う必要がある等の説明が行われた。

次いで、小池事務局長から「資料4」に基づき選考日程等が説明され、協議の結果、これを承認した。

- ・各大学から「議決権を有する者」の届出及び「理事候補者」の推薦
(事務局からの提出依頼:令和6年3月1日)

(事務局への提出期限：令和6年3月21日)

・各ブロック理事候補者の選出

(事務局からの選出依頼：令和6年4月1日)

(事務局への提出期限：令和6年4月18日)

(3) 令和6年度事業計画(案)について

小池事務局長から、「資料5」に基づき令和6年度事業計画(案)について説明があり、協議の結果、これを全会一致で承認した。

(4) 令和6年度収支予算(案)について

小池事務局長から、「資料6」に基づき令和6年度収支予算(案)について説明があり、協議の結果、これを全会一致で承認した。

(5) 令和5年度教育賞受賞者の選考及び教育賞実施規程の一部改正(案)について

井上会長(教育賞受賞者選考委員会委員長)から、本年度候補者5名(特定の事業に功績のあった者として、協会の各種委員会委員長からの推薦者4名及び大学からの推薦者1名)について、略歴、功績等の説明があった。

次いで、候補者5名について11月7日(火)に開催された「教育賞受賞者選考委員会及び第87回理事会」において協議が行われ、下記の4名が「資料7の①」のとおり広く薬学教育の発展に寄与するとともに、薬学教育に関する普及・啓発活動等に顕著な業績が見られることから、教育賞受賞者としてふさわしいとした旨報告があり、本総会においてもこれを了承した。

(「教育研究問題検討委員会」からの推薦)

武田 香陽子(北海道科学薬学部 教授)

高橋 秀依(東京理科大学薬学部 教授)

真野 泰成(東京理科大学薬学部 教授)

(「共用試験検討委員会」からの推薦)

出口 芳春(帝京大学薬学部 教授)

関連して、教育賞実施規程第2条(受賞資格)の改正を行うこととした。令和5年度教育賞受賞候補者に関して、薬学部以外の学部等での教員経験年数の取扱いが議論された。受賞の対象は、教育賞の趣旨(同規程第1条)に照らし、我が国の薬学教育に多大の貢献をし、薬学教育の進歩発展に特に功績のあった者とあることから、本協会加盟大学薬学部以外での教員経験年数は考慮しないこととした。

このため教育賞実施規程第2条（受賞資格）の改正を行うこととし、「資料7の②」に基づき改正案について説明があり、協議の結果、これを承認した。

《同規程第2条（受賞資格）の改正内容》

（現行）教育賞は、協会加盟の大学に原則として10年以上継続して勤務しており、「以下「略」

（改正案）教育賞は、協会加盟の大学の薬学部に原則として10年以上継続して勤務しており、「以下「略」

（6）教育研究問題検討委員会について

井上会長から、本検討委員会に関し以下の報告があった。

「本検討委員会の役割として、6年制薬学教育の在り方を議論することを目的に、理事の方々から、若手の教員等を委員として推薦いただき、これまで2回の検討委員会を開催した。その中で特に「薬剤師国家試験の在り方」について活発な意見交換が行われたこともあり、引き続き薬剤師国家試験のあるべき姿について考え方を取りまとめ、何らかの提言をすることも検討したい。その他コアカリ改訂や実務実習の在り方等についても議論がされている。」

（7）広報誌「6年制薬学ガイド2025」の刊行について

井上会長から、今回の編集より委員長を亀井理事に交代したことが報告された。

次いで、亀井委員長から「資料8」に基づき、今回刊行する「6年制薬学ガイド2025」の編集形式について、誌面を、縦組みから横組みに変更することが紹介された。内容については、倉敷中央病院の薬剤師及び女性の健康をサポートする薬局薬剤師を取り上げ、大学の学びでは、薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）の内容を織り込み、卒業後の進路では、6年制薬学部を卒業した者を中心に取り上げることにする等の説明があった。

なお、発行時期については、来年3月中旬頃を予定しているとの報告があった。

（8）薬学教育協議会について

本間参与（薬学教育協議会代表理事）から、「資料9」に基づき、以下について報告及び依頼があった。

① 第48回病院・薬局実務実習中央調整機構委員会について

- 令和5年度第Ⅰ・Ⅱ期実務実習報告の中で、ハラスメントの対応について、今回から報告だけでなく、その対応についても併せて報告すること

で、情報の共有を図った。

- ・ 薬学実務実習に関するガイドライン（令和 4 年度改訂版）については、WG でまとめた後、12 月に開催予定の「病院・薬局実務実習推進委員会」に提案し、承認を受けて公表する予定である。なお、その後、説明会も行う予定である。

また、臨地実習（臨床実習）を増やした方が良いのではないかとの議論があり、今回の改訂版ガイドラインにおいては、実務実習終了後に選択制で臨地実習を行うことが追加されることも検討されている。

- ② 2024(令和 6)年度薬学実務実習広報用ポスターの作成及び後援依頼について

本間参与から、日本私立薬科大学協会に対し、「2024(令和 6)年度薬学実務実習広報用ポスター」の作成にあたり後援名義の申請をしたい旨の説明があり、協会として、これを承認した。

(9) 薬学共用試験について

中村副会長（薬学共用試験センター試験総括委員会委員長）から、「資料 10」の「2024 年度薬学共用試験実施予定案」に基づき本試験の日程等について説明があり、詳細は、今後開催される全国薬科大学長・薬学部長会議の第 2 回総会に提案し、協議をお願いする予定であるとの報告があった。

1. 試験実施時期

- (1) 本試験：2024 年 11 月 30 日（土）～2025 年 1 月 28 日（火）
（ただし、2024 年 12 月 25 日（水）～2025 年 1 月 6 日（月）は除く）
- (2) 追・再試験：2025 年 2 月 15 日（土）～3 月 8 日（土）
- (3) CBT 体験受験：2024 年 7 月 19 日（金）～9 月 11 日（水）
（ただし、8 月 9 日～26 日は除く）

2. 対象学年

2025 年度に実務実習を履修する学生とし、2025 年 2 月下旬から 2026 年 2 月中旬までの期間に実施される実習を指す。

3. 受験料

本試験：1 人当たり 24,000 円
再試験：CBT、OSCE それぞれにつき 12,000 円
CBT 体験受験：1 人当たり 2,000 円

(10) 日本薬学会の報告について

中村副会長（日本薬学会薬学教育委員会委員長）から、「資料 11」に基づき以下について報告があった。

① 第 1 回シン・全国学生ワークショップ

「研究マインドを活かすキャリアについて博士を取得した先輩とともに考えよう」の開催経緯と概要

開催日：2023年8月11日（金）、開催方式：オンライン

参加者：研究に興味・関心を持つ薬学生71名（64大学）

② 「大学院生及び博士取得者のキャリアデザインにワークショップ」の開催概要

開催日：2023年11月12日（日）、開催方式：オンライン

参加者：大学院生 36名 博士取得者（取得5年未満）11名

(11) その他

1) 令和6年度主要会議（理事会・総会等）の開催予定について

小池事務局長から、「資料12」に基づき、令和6年度理事会・総会等の開催予定について説明があった。

2) 第8回「日本薬学教育学会大会」の報告について

中村副会長（同学会副理事長）から、「資料13」に基づき令和5年8月19日（土）、20日（日）の両日、熊本市内において熊本大学森岡弘志薬学部長を大会長として開催された第8回日本薬学教育学会大会「薬学教育、次のフェーズへ～グローバルコラボレーションへの進展～」について、大会概要、参加者数等の報告があった。

3) 第9回「日本薬学教育学会大会」の後援名義申請について

中村副会長（同学会副理事長）から、「資料14」に基づき2024年8月17日（土）、18日（日）の両日、東京薬科大学において第9回日本薬学教育学会大会「薬学教育におけるプロフェッショナリズムとは？」（大会長：袴田秀樹東京薬科大学薬学部長）を開催するにあたり、本協会に対し後援名義の申請があり、これを承認した。

9. 講演について

東京理科大学 宮崎 智薬学部長から、「薬学生の情報科学教育について」と題し、統計推計・情報科学・ICT系教育にヒントとなったもの、高校における情報教育の内容、東京理科大学における情報科学関連科目、AI 模擬患者を利用した服薬指導練習、バーチャル・フィジカルアセスメントモデル等について講演が行われた。

10. 薬学教育の諸課題について

(1) 文部科学省高等教育局医学教育課 大久保薬学教育専門官から「資料15」に基づき、以下について説明があった。

○ 6年制課程における薬学部教育の質保証について

- ・薬剤師を養成する役割である6年制課程の学部・学科の設置（大学の
新設を含む）及び収容定員増については、抑制方針をとる。
- ・ただし、地域における需要を踏まえ、薬剤師の確保を特に図るべき区
域として文部科学大臣が別に定める基準に該当する区域において都
道府県が定める計画に基づき行おうとする場合は、上記の例外とする。
- ・令和7年度に開設される大学等の新設及び既設大学の収容定員増から
適用する。
- ・文部科学大臣が別に定める基準については、厚生労働省の「薬剤師確
保計画ガイドライン」で示された薬剤師偏在指標が1.0（目標偏在指
標）を下回ることとする。

例外区域の基準に該当する都道府県 12 県

青森県、山形県、群馬県、富山県、福井県、岐阜県、愛知県、
三重県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

- ・例外区域において認可申請を行おうとする大学は、薬剤師偏在指標
を含む地域医療の課題等の教育や学生に対する就学資金の貸与など
都道府県と連携して薬剤師を確保するための支援を行うこととする。

- 薬学実務実習ガイドラインについて
- 令和5年度薬学教育指導者のためワークショップについて（報告）
テーマ：「薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）」
に基づくカリキュラム実施に向けた課題と対応
- 今後の医学教育の在り方に関する検討会について
- 各種要請等について
 - ・死因究明等の推進における教育等の充実について

(2) 厚生労働省医薬局総務課 太田薬事企画官から「資料 16」に基づき、
以下について説明があった。

- 第109回薬剤師国家試験の施行について
- 令和6年度医薬関係概算要求の概要について
- 令和4年度医薬品販売制度実態把握調査について
- 医薬品の販売制度に関する検討会について
- 薬系技官の採用について

11. 令和5年度教育賞授与式について

総会の議事終了後、教育賞授与式を行い、井上会長から、令和5年度教育
賞受賞者として、武田香陽子氏（北海道科学大学教授）、高橋秀依氏（東京
理科大学教授）、真野泰成氏（東京理科大学教授）、出口芳春氏（帝京大学
教授）の4名に対し、表彰状及び教育賞盾等の授与が行われた。

議長は、以上をもって議案の全部の審議を終了した旨を述べ、16時30分閉会を宣言した。

以上の議決を明確にするため、本議事録を作成し、議長及び出席理事（指名された議事録署名人）がこれに署名捺印する。

令和 5年12月18日

一般社団法人 日本私立薬科大学協会

議長兼議事録作成者 井 上 圭 三
(押印済)

出席理事（議事録署名人） 楠 文 代
(押印済)

出席理事（議事録署名人） 田 中 芳 夫
(押印済)